

丹沢ヴァリエーション第10回塩水橋からキューハ出合、寿岳、塔ノ岳、花立

平成25年11月16日(土) 曇り

参加者 杉本 忠 (リーダー)、中道 宏の計2名

いつもより早く橋本駅集合、橋本発 7時過ぎの三ヶ木行のバスに乗り、リーダー予約のタクシーで塩水(しおみず)橋まで行く(6020円)。

塩水橋には多くの車が駐車。朝の天気予報は快晴のはずであるが、曇り。残念。

8:33 (GPS 標高 366m、以下、同じ) 発、落ち葉が積もったコンクリート舗装林道を歩く。

8:39(394) すぐ分岐、そのまま進む。



9:29(683) 手作りの道標、赤ペナ。踏み跡は明瞭でないが、入る。



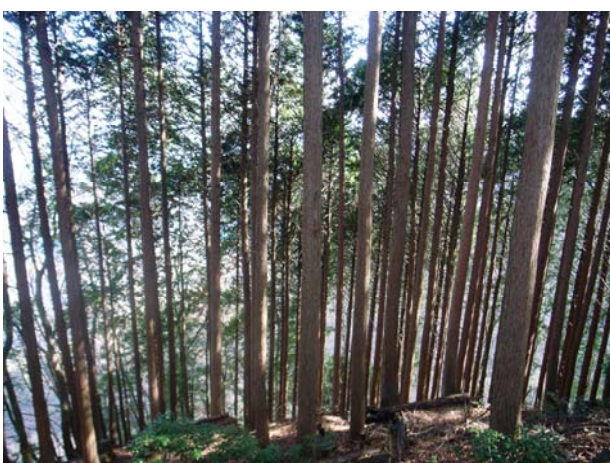
地形図上は三角沢の頭となっているとのリーダーの言。

路はすぐに2手に分かれる。1つはキュハ沢、もう1つは反対。後者を採るが、すぐにキュハ沢に向かい、踏み跡は崩壊している。少し辛抱してへつったが、地図読み通り尾根筋に急登する。これは正解。

10:00(772) はっきりした踏み跡に出る。



しばらくすると間伐・枝打ちされた立派な檜の人工林となり、この作業道を忠実に踏み、緩い場合には直登する。風が通り、まことに心地良い。



人工林から天然林に変わり、傾斜が緩くなると直登し、しばらくで

11:39(地形図 1331) 寿岳



道標の上にある石版にかすかに「寿」の文字

少し降り、両側がガレた尾根を蔓バラに刺されながら急登するところで、下山者に会う。
塔ヶ岳が、しばらくすると主脈縦走路が見える。





縦走者が多い。

12:44 塔ヶ岳。富士山は見えない。



当初花立に降る計画であったが、階段道を避けて小丸から降りることにする。

13:03(1373) 分岐

13:24(1345) 小丸

登山者は少ない。

人工林と天然林の境を降る。先週登ったマルガヤ尾根の隣である。

13:55(1082) 一時道を失くしたのではないかと心配したが、GPSで確認し、快調に降る。紅葉はそれほど良くない。



14:44(536) 林道

16:00 大倉

大勢の登山者を2台のバスが呑み込み、渋沢へ。

2月から毎月1回ペースで計画された丹沢ヴァリエーションは、今回で10回(天候等で2回延期)。残り1回には都合で参加できないので、7回参加した者として簡単に印象等を記しておきたい。

1. これまで参加した、雪山シリーズ、マルチ・クライミング等と同様大変愉しく、また多くの知見を得た。
リーダーの杉本さんと同行された皆さんに感謝申し上げます。また杉本さんの丹沢にかかる実績には驚嘆している。

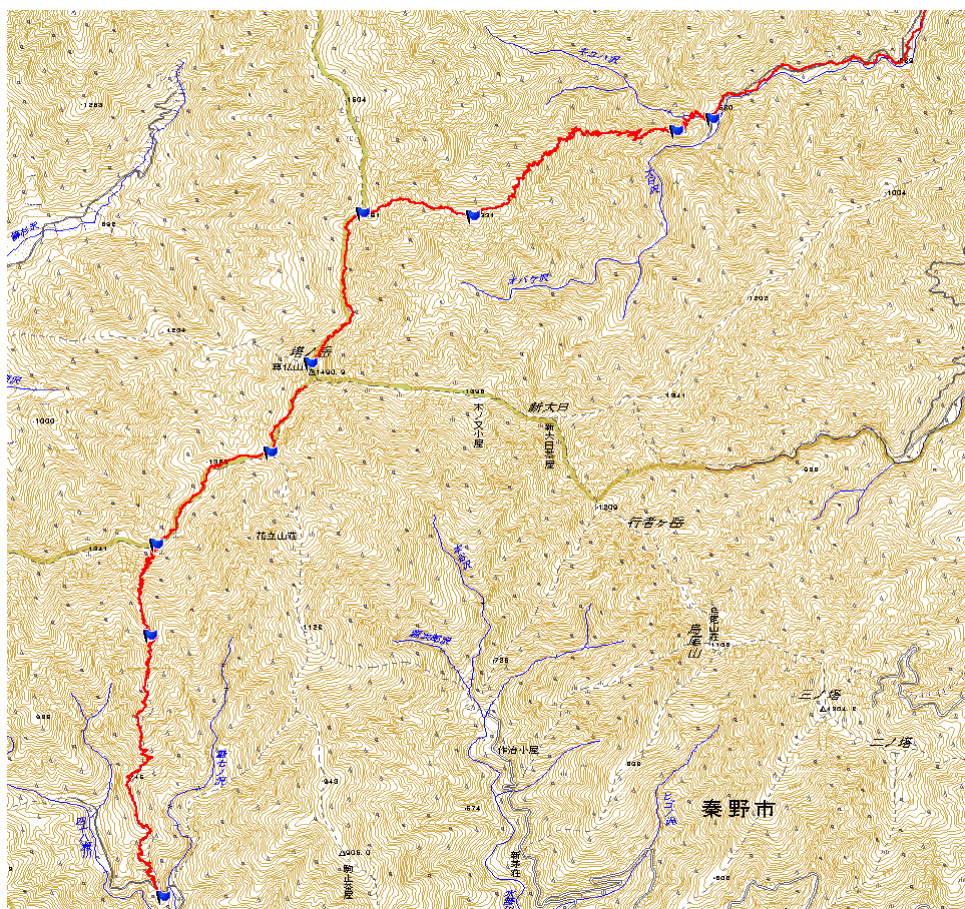
公共交通が不便で、往路を戻らないコースであったが、積極的にタクシーを活用した計画で、ゆとりある行動となった。これは高齢者には有難い。

2. 当初は固有名詞も分からず、ただついて行くだけだったが、WEB を訪ね、「誰も知らない丹沢」を読み、その著者岡澤重男さんから更なる情報をいただき、丹沢に関心が高まった。

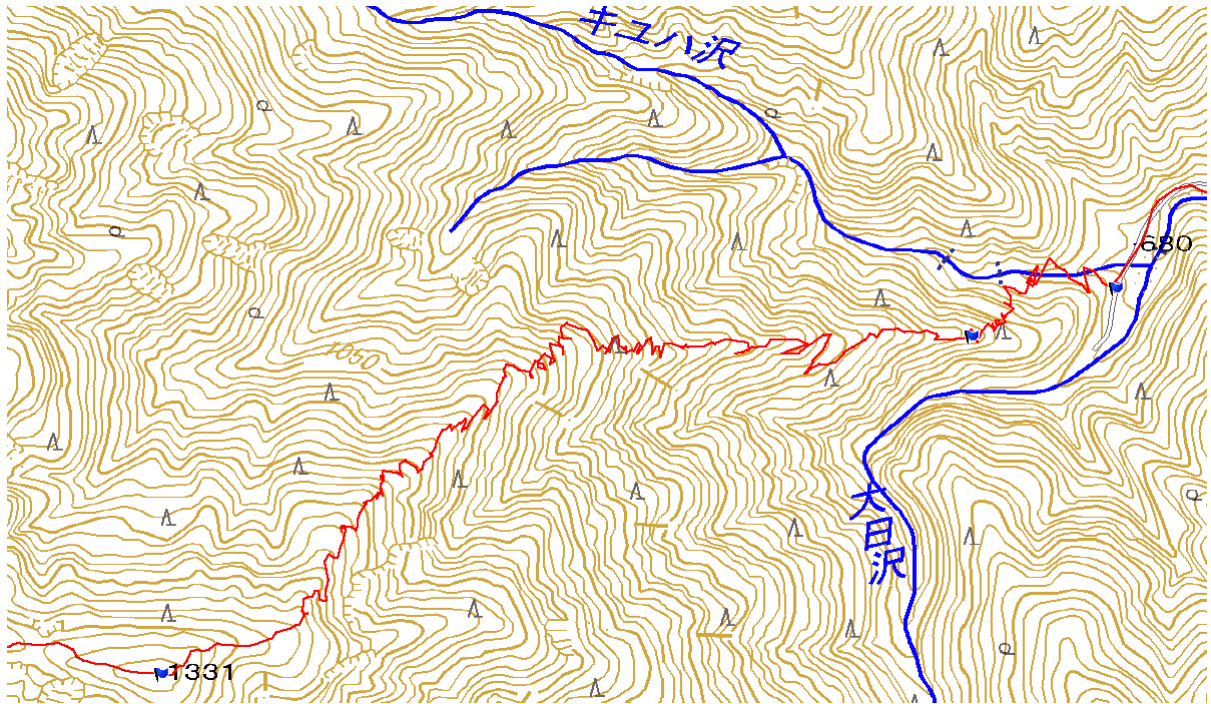
後半はカシミールで 4500 分の 1 地図を開き、予想コースを書き込むのも楽しみとなった。

3. 丹沢ヴァリエーションではほとんど人に遇わなかったが、人の息遣いは十分に感じた。それは人工林である。私たちが歩いた路の主たるものは、人工林整備のための道である（その延長上にある天然林は鹿の食害に遭って疎林となっており、それほどの藪漕ぎではない。）。急峻な山に檜や杉を植え続けてきた営為は、棚田とともに世界に誇るものと思う。

4. ふるさとが遠くなってしまった私は、ふるさとの山探しをしている。丹沢が少し近くなった感じである。



18000 分の 1 地図



4500 分の 1 地図

一部乱れ（キユハ沢には降りていない。軌跡が少しずれている）があるが、尾根筋に戻る軌跡は良く出ている。



人工林の整備路を歩いている。

（平成 25 年 11 月 16 日 中道 記）